

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2019年5月8日(水)

第20巻 第39号

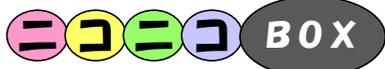
通巻第900

<http://www.oamirotary.com>
 E-mail rc@oamirotary.com



本日の例会

点 鐘 会長 宮間 文夫
 ソング 奉仕の理想
 会長挨拶 会長 宮間 文夫
 幹事報告 幹事 大越 将司
 卓 話
 九十九里在住 小沢君代様
 「甲子園の春」



なし

例会日	4月24日	4月10日
会員数	30	30
出席	18	18
欠席	12	12
MU	0	5
免除	1	0
出席率	63.33	76.67

会長挨拶

宮間 文夫 会長



皆さんこんにちは！ いかがお過ごしでしたでしょうか？
 去る20日は、地区研修・協議会お疲れ様でした。
 このたびのスリランカでの自爆テロでお亡くなりになった方々に対し
 心からご冥福をお祈り申し上げます。
 さて、本日のごあいさつは、先日の私、次年度ロータリー財団委員
 会に参加した際の思う所を述べさせていただきたいと思ひます。
 ロータリー財団は、会員の皆様方からいただいた寄附を 人々の健
 康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じ
 て、世界理解、親善、平和を達成できるようにする事に使っています。

したがいまして、ロータリー財団への寄附は、世界中のロータリーの奉仕活動の資金となっております。私達の寄附が巡り巡ってどこかのクラブの活動の補助金として役立てられるのです。私達がポリオ撲滅のため、ポリオワクチンの投与にアフガニスタンに行くことが出来なくても、或いはきれいな水を必要としているバングラデッシュに井戸を掘りに行く事が出来なくても、寄附をする事で奉仕活動に参加出来ます。「寄附は、第二の奉仕」です。どうかロータリー財団への寄附を会員の皆様方をお願い申し上げます。ごあいさつにかえさせていただきます。本日は元東京消防庁 署長 高本清紀様より卓話をいただけるという事です。どうぞ宜しくお願いします。それでは会員の皆様におかれましては、ご自愛下さいませよう！ありがとうございました。

卓 話

元東京消防庁 署長 高本 清紀 様

「救急搬送データからみる高齢者の日常生活の事故」



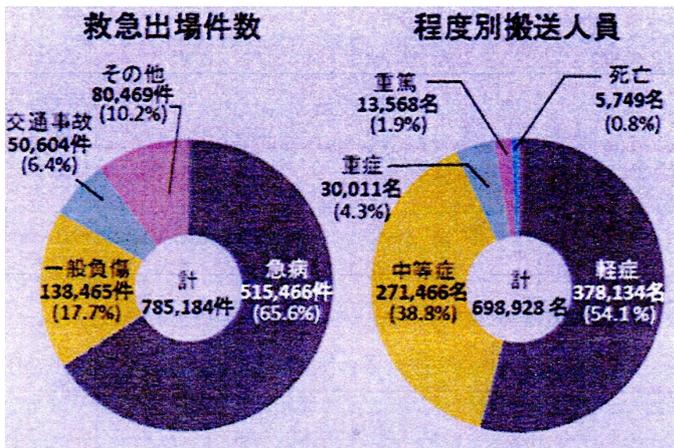
このデータは、東京消防庁の管轄する23区25市3町1村(稲城市・島しょ地区を除く)における平成29年(1月1日から12月31日まで)の救急活動状況を基礎として作成したものである。

1 平成29年の救急活動

平成29年の東京消防庁救急隊の出場件数は78万5,184件で、前年比7,802件、1.0%増加し、搬送人員は69万8,928人で前年比べ7,505人、1.1%増加し、ともに最多記録を更新しております。救急隊数253隊で1隊あたりの年間平均出場件数は3,103件となっております。また、高齢者(65歳以上)の搬送人員36万1,734人で全体の51.3%を占めています。

平成29年中

- 救急隊数 253 隊
- 救急出場件数 785,184件
- 40秒に1回の出場



幹事報告

大越幹事より



クラブよりお知らせ

<大越会員より>

4月28日に無事空手の大会を終えることが出来ました。大網ロータリークラブからも協力頂き、感謝申し上げます。



<演武 大越会員>



出席者: 堀本会員、四之宮会員、高山会員

2 日常生活における高齢者(65歳以上)の事故分析 361,734人

(1) 高齢者の事故による救急搬送人員状況

高齢者の搬送人員 361,734人の事故種別からみた搬送人員状況

種別	急病	一般負傷	交通事故	労働災害	火災	その他
全体(人)	460,710	125,520	48,036	4,874	677	9,584
高齢者(人)	247,124	75,474	10,304	755	241	2,021
割合(人)	53.6	60.1	21.5	15.5	35.6	21

加害事故 全体 5,473人 高齢 666人 (12.2%)

●自損行為 全体 3,621人 高齢 468人 (12.9%)

●水難事故 490人 高齢者 387人 (79%)、他少数(高齢者)のためカット

(2) 日常生活における救急搬送人員

高齢者の事故は年々増加しています。平成29年中の救急搬送人員は76,889人で平成25年と比較すると14,961人増加しています。

(3) 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割を超えています。

(4) 事故発生場所搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると約9割を占めている。

(5) 高齢者の事故種別

高齢者の事故原因は「こぼれ」が8割を占めており、「こぼれ」事故の発生場所は住宅等の居住場所(56%)、道路、交通施設等(34%)で多く発生しています。

3 「こぼれ」・「落ちる」の事故事例と防止対策

(1) 事故事例

- ① 自宅居室内で敷居につまずいて転倒、右足太ももを骨折した。(70代・中等症)
- ② 自宅で入浴中、浴室から洗い場に出る際に誤って転倒、腰を打ち受傷(90代・中等)
- ③ 自宅の階段2段目から1階廊下に転倒し、太ももを受傷した。(80代・中等症)
- ④ 高さ2メートルの脚立を利用し、庭木の剪定中に転倒した。(70代・重篤)
- ⑤ 薬を飲もうとした際に、誤って薬の空包を飲み込んでしまった(70代・中等症)

(2) 防止策

こぼれ事故を防ぐには、

- ① 段差をなくす
- ② 段差の先端に目印となるテープを貼る等わかりやすくする
- ③ 足元を明るくする
- ④ 階段、廊下、玄関先などに滑り止めをする
- ⑤ 階段等に手すりを付ける
- ⑥ こぼれ原因となるものは取り除く
- ⑦ 自分に合った運動を行い体力をつける
- ⑧ 時間に余裕を持って行動する
- ⑨ 夜間や天候の悪い時は足元に注意する
- ⑩ 浴室など床が濡れている場合はすべる危険が高いため注意する



4 熱中症

(1) 発生状況 熱中症の年齢

	0~64歳	65歳以上	総計	65歳以上の割合
平成27年	2,372人	2,330人	4,702人	49.6%
平成28年	1,428人	1,391人	2,819人	49.3%
平成29年	1,633人	1,534人	3,167人	48.4%

(3) 事例

① 室内で熱中症になった事例

エアコンのない高温の居室内に長時間いたところ、頭痛、ふらつき症状が出た。

(60代 中等症 気温 31.7℃ 湿度 60%)

(4) 対策

- 暑さに身体を慣らしていく。
- 高温・多湿・直射日光を避ける。
- 水分補給は計画的、かつ、こまめにする。
- 運動時などは計画的な休憩をする。
- 規則正しい生活をする。
- 乗用車等の車内の温度は短時間で高温になるため、子供だけにしない。



5 救急車の適正利用

救急出件件数が過去最高を記録するなか、平成29年は、救急車が出場してから現場に到着するまでの時間が、平均で7分19秒でした。今後、さらに出件件数が増加すると救急隊が到着するまでの時間が延びてしまい、救える命が救えなくなる恐れがあります。このことから、真に救急車を必要とする方々へ適切に救急隊が対応できるようマナーを守った救急車の適正利用が大切です。

参考文献 東京消防庁 救急活動の現況 平成29年

東京消防庁 救急搬送データからみる日常生活事故の実態 平成29年